

2024年9月期 決算短信〔日本基準〕(連結)



2024年11月7日

東

上場会社名 株式会社CRI・ミドルウェア 上場取引所
コード番号 3698 URL <https://www.cri-mw.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 押見 正雄
問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 企画本部長 (氏名) 櫻井 敦史 (TEL) 03-6823-6853
定時株主総会開催予定日 2024年12月19日 配当支払開始予定日 2024年12月5日
有価証券報告書提出予定日 2024年12月20日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年9月期の連結業績(2023年10月1日~2024年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期	3,167	5.9	368	6.8	383	1.1	304	30.9
2023年9月期	2,990	5.3	344	254.0	379	173.8	232	—

(注) 包括利益 2024年9月期 295百万円(26.9%) 2023年9月期 232百万円(—%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年9月期	58.27	—	8.4	7.3	11.6
2023年9月期	43.77	—	6.6	7.5	11.5

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年9月期	5,360	3,768	69.6	714.22
2023年9月期	5,159	3,550	68.1	672.43

(参考) 自己資本 2024年9月期 3,731百万円 2023年9月期 3,513百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年9月期	328	△9	△77	3,629
2023年9月期	495	△209	△215	3,391

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2023年9月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年9月期	—	0.00	—	15.00	15.00	78	33.7	2.2
2024年9月期	—	0.00	—	20.00	20.00	104	34.3	2.8
2025年9月期(予想)	—	0.00	—	20.00	20.00		33.5	

3. 2025年9月期の連結業績予想(2024年10月1日~2025年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	3,360	6.1	384	4.2	394	2.8	312	2.5	59.71

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 無
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年9月期	5,578,150株	2023年9月期	5,578,150株
② 期末自己株式数	2024年9月期	352,977株	2023年9月期	353,477株
③ 期中平均株式数	2024年9月期	5,224,807株	2023年9月期	5,312,889株

(参考) 個別業績の概要

1. 2024年9月期の個別業績(2023年10月1日~2024年9月30日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期	2,690	17.9	365	7.1	376	2.5	300	23.6
2023年9月期	2,281	21.7	341	82.4	366	63.0	243	—
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
2024年9月期	57.58		—					
2023年9月期	45.82		—					

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
2024年9月期	5,257		3,736		70.9		713.62	
2023年9月期	5,073		3,513		69.1		671.02	

(参考) 自己資本 2024年9月期 3,728百万円 2023年9月期 3,505百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の要因に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1.経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
連結損益計算書	7
連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	14
(セグメント情報等)	14
(1株当たり情報)	16
(重要な後発事象)	16

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、一部に弱めの動きもみられるが、海外経済が緩やかな成長を続けるもとで、企業収益は改善し、業況感は良好な水準を維持しており、景気は緩やかに回復しております。

当社グループを取り巻く事業環境については、コロナ禍を契機として普及したテレワークが新たな働き方として定着し、ボイスチャットやWeb会議ツールなどオンラインコミュニケーションツールの活用は常態化しております。また、モビリティ業界においては、SDV (Software Defined Vehicle) の開発が注目を集めており、ゲーム業界でミドルウェアを開発し培ってきた当社の技術と知見が、モビリティ業界におけるSDVの開発に対しても貢献できるものと考えております。

これらの状況下、当社グループは、オンラインコミュニケーションミドルウェア「CRI TeleXus (シーアールアイテレックス)」の開発を行うとともに、モビリティなど今後成長が見込める事業、市場を見据えた研究開発体制を整備し、事業基盤の拡大、グループシナジーの創出に注力いたしました。

当連結会計年度の業績は、売上高3,167,285千円(前期比5.9%増)、営業利益368,358千円(前期比6.8%増)、経常利益383,405千円(前期比1.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益304,468千円(前期比30.9%増)となりました。

セグメント毎の経営成績は、次のとおりであります。

① ゲーム事業

当社製ミドルウェア「CRIWARE (シーアールアイウェア)」等の国内ライセンス売上は、当期も一括ライセンス売上の計上はあったものの、前期ほどのサイズ感ではなかったため、減少いたしました。また、海外向けは、中国でのライセンスビジネスは復調しつつも、コンテンツ受託ビジネスおよび欧米でのライセンスビジネスが低迷し、減少いたしました。株式会社ツーフাইブが行う音響制作は、効果音や楽曲などの制作業務が好調だったことに加え、当下期に大型の音声収録業務を受注したことにより、過去最高の売上・利益を達成いたしました。なお、ゲーム開発/運営の売上は、当分野を担っていた株式会社アールフォース・エンターテインメントの全株式を前期末に譲渡したことによりなくなっており、当セグメント売上は前期に比べ大きく押し下げられております。また、「CRI TeleXus」への研究開発投資は当セグメントにおいて継続して行っております。当セグメントの売上高は1,676,762千円(前期比15.0%減)、セグメント利益は116,713千円(前期比36.9%減)となりました。

② エンタープライズ事業

組込み分野の売上は、カラオケ案件を継続して受注したことやセガ フェイブ社のePICOシステム開発を受注したこと等により、増加いたしました。モビリティ分野の売上は、車載サウンドソリューション「CRI ADX Automotive」および車載メーターグラフィックソリューション「CRI Glassco」のライセンス収入増により、増加いたしました。クラウドソリューション分野の売上は、ポールトゥウィン社など複数の顧客より受注した大型のシステム開発案件が好調に推移したことにより、増加いたしました。当セグメントの売上高は1,490,523千円(前期比46.2%増)、セグメント利益は251,645千円(前期比57.4%増)となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

① 資産の部

当連結会計年度の資産の部は、前連結会計年度末に比べて201,155千円増加し、5,360,200千円となりました。これは主に、「現金及び預金」の増加(前連結会計年度末に比べて235,774千円の増加)、「売掛金及び契約資産」の増加(前連結会計年度末に比べて89,818千円の増加)及び「貸倒引当金」の取崩による増加(前連結会計年度末に比べて14,326千円の増加)があった一方、「有価証券」の減少(前連結会計年度末に比べて100,198千円の減少)、「無形固定資産」の減少(前連結会計年度末に比べて50,779千円の減少)及び「投資その他の資産」の減少(前連結会計年度末に比べて14,721千円の減少)によるものであります。

② 負債の部

当連結会計年度の負債の部は、前連結会計年度末に比べて16,438千円減少し、1,592,136千円となりました。これは主に、「固定負債」の増加(前連結会計年度末に比べて15,372千円の増加)及び「未払法人税等」の増加(前連結会計年度末に比べて52,117千円の増加)があった一方、「買掛金」の減少(前連結会計年度末に比べて12,481千円の減少)及び「その他流動負債」の減少(前連結会計年度末に比べて71,446千円の減少)によるもの

であります。

③ 純資産の部

当連結会計年度の純資産の部は、前連結会計年度末に比べて217,594千円増加し、3,768,063千円となりました。これは主に、「親会社株主に帰属する当期純利益」の計上による「利益剰余金」の増加（前連結会計年度末に比べて226,098千円の増加）があった一方、「為替換算調整勘定」の減少（前連結会計年度末に比べて7,805千円の減少）によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ238,418千円増加し、3,629,500千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は以下の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動により獲得した資金は328,334千円（前連結会計年度は495,423千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の計上383,405千円及び減価償却費の計上147,085千円の資金の増加要因があった一方、売上債権の増加額74,100千円、未払費用の減少額52,664千円、貸倒引当金の減少額14,326千円及び未払消費税等の減少額27,899千円並びに法人税等の納付額29,055千円の資金の減少要因があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動により使用した資金は9,122千円（前連結会計年度は209,431千円の支出）となりました。これは主に、有価証券の償還による収入100,000千円の資金の増加要因があった一方、有形固定資産の取得による支出35,664千円及び無形固定資産の取得による支出77,038千円の資金の減少要因があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動により支出した資金は77,866千円（前連結会計年度は215,382千円の支出）となりました。これは主に、配当金の支払いによる支出77,866千円の資金の減少要因があったことによるものであります。

	2022年9月期	2023年9月期	2024年9月期
自己資本比率(%)	69.7	68.1	69.6
時価ベースの 自己資本比率(%)	103.0	111.4	77.3
キャッシュ・フロー対 有利子負債比率(%)	—	—	—
インタレスト・ カバレッジ・レシオ(倍)	—	—	—

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー/利払い

(注) 1. いずれも連結ベースの財務数値を用いて計算しております。

2. キャッシュ・フロー対有利子負債比率については、上記いずれの期においても期末の有利子負債残高が存在しないため、記載しておりません。

3. インタレスト・カバレッジ・レシオについては、上記いずれの期においても有利子負債が存在せず利払いがないため、記載しておりません。

(4) 今後の見通し

今後のわが国経済は、海外経済が緩やかな成長を続けるもとで、緩和的な金融環境などを背景に、所得から支出への前向きの循環メカニズムが徐々に強まることから、潜在成長率を上回る成長を続けると考えられております。また、企業収益は、内外需要が緩やかに増加していくもとで、改善傾向をたどるとみられております。そうしたもとで、設備投資は、緩和的な金融環境が下支えとなるなか、人手不足対応やデジタル関連の投資、成長分野・脱炭素化関連の研究開発投資、サプライチェーンの強靱化に向けた投資を含め、増加傾向を続けると考えられております。

このような状況におきまして、当社グループは、引き続き、今後成長が見込める事業、市場を見据えた研究開発体制を整備し、事業基盤の拡大、グループシナジーの創出に注力いたします。

次期は、オンラインコミュニケーションミドルウェア「CRI TeleXus（シーアールアイ テレクサス）」への技術開発に継続的投資を行うとともに、リアルタイム処理技術、動画・静止画に係る技術を集約した新製品の研究開発投資を行います。

当社グループの次期の連結業績の見通しにつきましては、以下のとおりです。

	通期	(前期比)
売上高	3,360百万円	6.1%増
営業利益	384百万円	4.2%増
経常利益	394百万円	2.8%増
親会社株主に帰属する当期純利益	312百万円	2.5%増

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国内の同業他社との比較可能性を考慮し、当面においては日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。なお、今後のI F R S (国際財務報告基準)の採用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当連結会計年度 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,390,624	3,626,399
売掛金及び契約資産	677,091	766,910
有価証券	100,198	—
商品	3,826	3,938
仕掛品	10,093	18,677
その他	58,131	70,829
貸倒引当金	△16,701	△2,375
流動資産合計	4,223,265	4,484,379
固定資産		
有形固定資産		
建物	117,593	139,782
減価償却累計額	△14,235	△22,483
建物（純額）	103,357	117,298
工具、器具及び備品	102,115	106,814
減価償却累計額	△61,105	△74,203
工具、器具及び備品（純額）	41,009	32,610
有形固定資産合計	144,366	149,908
無形固定資産		
ソフトウェア	420,545	376,417
のれん	7,205	554
無形固定資産合計	427,750	376,971
投資その他の資産		
投資有価証券	138,938	139,075
繰延税金資産	79,539	73,949
その他	145,183	135,916
投資その他の資産合計	363,662	348,940
固定資産合計	935,779	875,820
資産合計	5,159,044	5,360,200

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当連結会計年度 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	86,299	73,817
未払法人税等	36,936	89,053
その他	299,596	228,150
流動負債合計	422,832	391,021
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	1,000,000	1,000,000
退職給付に係る負債	130,334	143,416
役員退職慰労引当金	55,408	—
その他	—	57,698
固定負債合計	1,185,743	1,201,115
負債合計	1,608,575	1,592,136
純資産の部		
株主資本		
資本金	784,904	784,904
資本剰余金	825,290	825,083
利益剰余金	2,266,378	2,492,477
自己株式	△383,396	△382,784
株主資本合計	3,493,177	3,719,680
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	20,067	12,262
その他の包括利益累計額合計	20,067	12,262
新株予約権	7,543	7,453
非支配株主持分	29,680	28,666
純資産合計	3,550,469	3,768,063
負債純資産合計	5,159,044	5,360,200

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
売上高	2,990,991	3,167,285
売上原価	1,258,372	1,450,142
売上総利益	1,732,619	1,717,142
販売費及び一般管理費	1,387,736	1,348,783
営業利益	344,882	368,358
営業外収益		
受取利息	2,481	1,866
受取配当金	10,637	7,846
役員退職慰労引当金戻入額	6,232	—
補助金収入	5,469	2,207
敷金及び保証金清算益	7,005	—
その他	8,214	6,020
営業外収益合計	40,041	17,942
営業外費用		
為替差損	5,486	1,680
固定資産除却損	1	1,214
その他	175	—
営業外費用合計	5,664	2,895
経常利益	379,259	383,405
特別損失		
関係会社株式売却損	80,797	—
特別損失合計	80,797	—
税金等調整前当期純利益	298,461	383,405
法人税、住民税及び事業税	63,361	79,454
法人税等調整額	4,492	5,590
法人税等合計	67,853	85,044
当期純利益	230,607	298,360
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△1,975	△6,108
親会社株主に帰属する当期純利益	232,583	304,468

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
当期純利益	230,607	298,360
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	2,312	△2,710
その他の包括利益合計	2,312	△2,710
包括利益	232,920	295,649
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	229,923	296,663
非支配株主に係る包括利益	2,996	△1,013

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	784,904	825,290	2,033,795	△168,031	3,475,959
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	—	—	232,583	—	232,583
自己株式の取得	—	—	—	△215,945	△215,945
自己株式の処分	—	—	—	580	580
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	—	232,583	△215,364	17,218
当期末残高	784,904	825,290	2,266,378	△383,396	3,493,177

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	22,727	22,727	10,842	26,684	3,536,213
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	—	—	—	—	232,583
自己株式の取得	—	—	—	—	△215,945
自己株式の処分	—	—	—	—	580
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△2,659	△2,659	△3,299	2,996	△2,962
当期変動額合計	△2,659	△2,659	△3,299	2,996	14,256
当期末残高	20,067	20,067	7,543	29,680	3,550,469

当連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	784,904	825,290	2,266,378	△383,396	3,493,177
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	△78,370	—	△78,370
親会社株主に帰属する 当期純利益	—	—	304,468	—	304,468
自己株式の取得	—	—	—	—	—
自己株式の処分	—	△207	—	611	404
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	△207	226,098	611	226,503
当期末残高	784,904	825,083	2,492,477	△382,784	3,719,680

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	20,067	20,067	7,543	29,680	3,550,469
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	—	—	△78,370
親会社株主に帰属する 当期純利益	—	—	—	—	304,468
自己株式の取得	—	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	—	—	404
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△7,805	△7,805	△89	△1,013	△8,908
当期変動額合計	△7,805	△7,805	△89	△1,013	217,594
当期末残高	12,262	12,262	7,453	28,666	3,768,063

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	298,461	383,405
減価償却費	119,886	147,085
のれん償却額	6,651	6,651
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	—	△14,326
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	436	13,082
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	2,178	△55,408
受取利息及び受取配当金	△13,119	△9,713
為替差損益 (△は益)	△335	1,680
子会社株式売却損益 (△は益)	80,797	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△99,855	△74,100
棚卸資産の増減額 (△は増加)	4,318	△8,695
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△15,234	△10,639
仕入債務の増減額 (△は減少)	△20,058	△12,481
未払消費税等の増減額 (△は減少)	82,291	△27,899
未払費用の増減額 (△は減少)	71,775	△52,664
未払金の増減額 (△は減少)	—	3,949
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	31,740	△10,832
長期未払金の増減額 (△は減少)	—	57,698
その他	△11,719	10,741
小計	538,215	347,532
利息及び配当金の受取額	13,779	9,857
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△56,571	△29,055
営業活動によるキャッシュ・フロー	495,423	328,334
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	—	100,000
有形固定資産の取得による支出	△12,029	△35,664
有形固定資産の売却による収入	—	3,509
無形固定資産の取得による支出	△153,189	△77,038
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△51,212	—
保険積立金の積立による支出	△111	—
敷金及び保証金の返還による収入	7,005	—
その他	105	71
投資活動によるキャッシュ・フロー	△209,431	△9,122
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△215,945	—
自己株式の処分による収入	580	—
配当金の支払額	△17	△77,866
財務活動によるキャッシュ・フロー	△215,382	△77,866
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,704	△2,925
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	73,313	238,418
現金及び現金同等物の期首残高	3,317,767	3,391,081
現金及び現金同等物の期末残高	3,391,081	3,629,500

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 3社(前連結会計年度 3社)

主要な連結子会社の名称

株式会社ツーファイブ

上海希艾維信息科技有限公司

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

会社名	決算日
上海希艾維信息科技有限公司	12月31日

連結財務諸表の作成にあたっては、次のとおりであります。

上海希艾維信息科技有限公司については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

イ. 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

ロ. その他有価証券

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

② 棚卸資産

商品、仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

当社及び国内の連結子会社は、定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。また、在外子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物……………8年～18年

工具、器具及び備品…4年～15年

② 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、市場販売目的のソフトウェアについては見込販売収益に基づく償却額と見込販売可能期間(3～5年)に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を計上する方法を採用しております。また、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(3～5年)に基づいております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退任慰労金内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しておりますが、役員退職慰労金制度を廃止することとし、2023年12月21日開催の定時株主総会において役員退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給案が承認可決されました。これにより、「役員退職慰労金引当金」を全額取崩し、打ち切り支給額の未払い分57,698千円については、固定負債の「その他」に含めて表示しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当連結会計年度末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。また、国内の連結子会社は、確定拠出型の制度として中小企業退職金共済制度を採用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

① ライセンスの供与

当社グループでは、主に音声・映像分野に特化したミドルウェア/ツール等のソフトウェアについて許諾販売を行っております。顧客に提供したソフトウェアのライセンスが、ライセンス供与期間にわたり知的財産へアクセスする権利である場合は、契約期間にわたり収益を認識し、ライセンスが供与される時点の知的財産を使用する権利である場合は、一時点で収益を認識しております。

また、売上高に基づくロイヤリティに係る収益は契約相手先の売上等を算定基礎として測定し、その発生時点を考慮して履行義務の充足を判断し、顧客からの売上報告書の受領時点で収益を認識しております。

② 受注制作のソフトウェア

当社グループでは、ゲーム事業における音響制作及びエンタープライズ事業における受注制作のソフトウェア開発を行っております。これらソフトウェアの受注制作については、契約に基づく開発作業を進めるにつれ顧客に対する履行義務が充足されると判断し、履行義務の充足に係る進捗度に基づき収益を認識しております。履行義務の充足に係る進捗度の見積り方法は、プロジェクトの総見積原価に対する連結会計年度末までの発生原価の割合（原価比例法）によって算定しております。なお、進捗度を合理的に見積もることができないが、当該履行義務を充足する際に発生する費用を回収することが見込まれるものについては、原価回収基準により収益を認識しております。また、契約における開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い案件については、顧客による検収時点で収益を認識しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

5年間の定額法により償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前連結会計年度(自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

1. 配当に関する事項

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年11月9日 取締役会	普通株式	利益剰余金	78,370	15	2023年9月30日	2023年12月7日

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループのセグメントは、顧客・マーケットを総合的に勘案し区分しており、「ゲーム事業」と「エンタープライズ事業」の2つを報告セグメントとしております。

「ゲーム事業」は、主にゲーム業界向けにゲーム開発をスムーズかつ効率的に行うための音声・映像関連ミドルウェアの提供や、画像最適化ソリューションの提供、音響制作等を行っており、「エンタープライズ事業」は、ゲーム事業で培った音声・映像関連の技術を活かし、主にゲーム業界以外の業界向けに、音声・映像関連ミドルウェアやソリューションの提供、関連する受託開発等を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

資産及び負債等に関する情報は経営資源配分及び業績評価の中心となる情報として取り扱っていないため、開示を省略しております。なお、償却資産の減価償却費は事業セグメントに配分しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			連結損益計算書 計上額
	ゲーム事業	エンター プライズ事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,971,809	1,019,182	2,990,991	2,990,991
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	1,971,809	1,019,182	2,990,991	2,990,991
セグメント利益	184,970	159,912	344,882	344,882
その他の項目				
減価償却費	65,651	54,235	119,886	119,886
のれんの償却額	6,651	—	6,651	6,651

(注) セグメント利益は連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			連結損益計算書 計上額
	ゲーム事業	エンター プライズ事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,676,762	1,490,523	3,167,285	3,167,285
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	1,676,762	1,490,523	3,167,285	3,167,285
セグメント利益	116,713	251,645	368,358	368,358
その他の項目				
減価償却費	56,276	90,808	147,085	147,085
のれんの償却額	6,651	—	6,651	6,651

(注) セグメント利益は連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
1株当たり純資産額	672.43円	714.22円
1株当たり当期純利益	43.77円	58.27円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—円	—円

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
(1) 1株当たり当期純利益		
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	232,583	304,468
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益	232,583	304,468
普通株式の期中平均株式数(株)	5,312,889	5,224,807
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会 計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載して
おりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。